

交通安全に気を付けて

明盛建設(株)による旗の波街頭啓発
交通安全運動推進協議会による旗の波街頭啓発



旗の波で交通安全を呼び掛ける明盛建設の皆さん



旗の波街頭啓発で交通安全を呼び掛ける奥小児童

明盛建設(藤田利道代表取締役)の皆さんが9月27日、道の駅摩周温泉近くの国道241号沿いで、道行くドライバーに安全運転を呼び掛ける街頭啓発を行いました。社会貢献活動として、秋の全国交通安全運動期間に合わせて、毎年行っているものです。この日は約30人が参加。旗の波運動を行い、道行くドライバーなどに安全運転を呼び掛けました。

9月30日には、弟子屈町交通安全運動推進協議会会長・徳永町長主催の旗の波街頭啓発が、摩周観光文化センター前の国道391号沿いで行われました。秋の全国交通安全運動期間(9月21日～30日)に合わせて毎年行っています。今年は弟子屈町交通安全協会や女性ドライバークラブ、自治会、老人クラブなどから約70人と奥春別小学校の児童20人が参加。旗を片手に、行き交うドライバーに交通安全を呼び掛けたほか、啓発品を手渡して安全運転を促しました。

熱い試合に熱い応援

札幌ドームで北海道日本ハムファイターズ戦観戦



観戦者全員に球団からプレゼントされたタオルを手に(上)
観戦者と記念撮影を行う谷元投手と鶴岡捕手(下)

同球団の北海道移転10年目を記念した「北海道全力応援プロジェクト」に本町が選ばれ、鶴岡慎也投手と谷元圭介投手が本町の応援大使に就任したことから、町民の皆さんが試合観戦に招待されたものです。多数の応募の中から、抽選で選ばれた100人が試合を観戦。残念ながら東北楽天イーグルスに負けてしまいましたが、目の前で繰り広げられる熱戦に熱い声援を送りました。

試合前には、応援大使の鶴岡捕手と谷元投手が観戦者のもとに赴き、記念撮影を行うなど交流を行いました。

また、ドーム内に弟子屈町のPRブースも設けられ、訪れた野球ファンなどの目を引きました。

プロ野球北海道日本ハムファイターズ応援ツアアが9月22日に行われ、町民の皆さん10人が札幌ドームで行われた公式戦を楽しみました。

町の話題



町の話題

町の話題



町の話題

金子さん・川上さんが受賞

第6回更科源藏文学賞贈呈式



受賞者を囲んで 前列右から3人目が金子さん、同4人目が川上さん

更科源藏文学賞の会(高田中会長)主催の「第6回更科源藏文学賞贈呈式」が9月28日、摩周観光文化センターで行われ、詩集「らん系」で金子以左生さん(栃木県)、詩集「往還草」で川上明日夫さん(福井県)が同賞に選ばれました。

この賞は、原野の詩人・更科源藏氏の功績を顕彰するため2003年に創設され、隔年で実施されています。今回は全国から138点の詩集の応募がありました。

贈呈式には、高田会長や町民の皆さん、児童・生徒などが出席。日本現代詩人会会員で同賞選考委員長の詩人・原子修氏が、選考の経緯や選評、受賞者紹介を発表し、高田会長が受賞者の2人に賞状と目録を手渡しました。

贈呈式終了後には、更科源藏作詞の校歌を披露。昭栄・川湯・和琴の各小学校児童と川湯・弟子屈両中学校生徒が校歌を披露し、たくさんの拍手が送られました。

また「更科源藏の詩を歌う会」の皆さんが混声合唱組曲「海鳥の歌」から「オロロン鳥」「海鷲」「エトピリカ」を披露し、大きな拍手が送られました。

合唱を披露する「更科源藏の詩を歌う会」の皆さん

個性のままに感性を詠って

弟子屈短歌会創立60周年



60周年記念歌集を手に節目を喜ぶ弟子屈短歌会の皆さん

弟子屈短歌会(柿崎清一会長)が創立60周年を迎えました。

節目を記念した歌集「青い川」を発行したほか、9月24日には記念歌会を開催し、長く続けてきた創作活動を互いに喜びました。

同会は1953(昭和28)年設立。戦後、心の潤いを文化活動に求めて短歌愛好者が集うようになり、1950年に弟子屈町文化協会が設立され、町内の文化活動が盛んになっていたところでもあり、短歌愛好者の間でも同協会加入への機運が高揚。会設立の翌年、1954年に同協会に加盟しました。

現在、会員は13人。毎月1回の例会で研さんを重ねているほか、年2回の季刊会誌発行、町総合文化祭や春のまつり(町文化協会主催)への出品、各種短歌大会への参加などを行っています。短歌の魅力について会員の皆さんは「短歌は詩情の文学」「短歌を詠むようになると、物の見方や考え方が、受け止め方が豊かになる」「感性にびったりくる言葉を見つけられると、何ともいえづらい」と話していました。会長の柿崎さんは「会員の個性を尊重し、自由多彩に詠むことを目指してきたから長く続けてこられた。これからも清冽な趣を持ちながら続けていきたい」と話しています。

例会ではお互いの作品に感想や意見を

9月22日
道内のばん馬愛好家が集合
熱戦続きの摩周湖ばん馬大会



迫力あるレースに観客も大興奮

摩周湖馬友の会(近江屋茂会長)主催のひがし北海道馬事祭「第5回摩周湖ばん馬大会」が9月22日、弟子屈町摩周馬場で開催されました。

ばん馬文化の継承と地域活性化を目的に毎年開催されているもの。今年は馬齢や重量ごとに行われた18レースに約70頭が参加し、ポニーレースでの子どもたちの手綱さばきや、重量馬の迫力のあるレース運びなどに、観客が大いに沸きました。また、お楽しみ抽選会や餅まきなどが行われたほか、ポニーとのふれあいコーナーなどもあり、家族で楽しむ姿が見られました。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐかけつけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

9月28日
小学生12人が登山と山頂からの景色楽しむ
未来子ども協議会主催のもことやまハイキング



全員で頂上へ到着

弟子屈町未来子ども協議会(目黒厚子会長)主催のもことやまハイキングが9月28日に行われ、小学生12人が参加しました。

同会は、子どもたちの健やかな育ちを地域で支えようという会で、さまざまな体験活動を行っています。今回は、会員の中のアウトドアガイドや登山愛好家などが中心となって藻琴山登山を企画。大空町東藻琴側からのルートでの登山に挑戦しました。天候にも恵まれ、山頂からは屈斜路湖などの絶景を堪能。8合目山小屋での昼食では、銀嶺水と呼ばれる湧き水を使ったスープも楽しみました。

9月24日
暴力団の入場はお断りします
弟子屈カントリークラブが暴力団排除宣言



暴力団排除宣言を行う宮崎支配人

弟子屈原野のゴルフ場・合田観光商事弟子屈カントリークラブ(宮崎剛支配人)による暴力団排除宣言式が9月24日、弟子屈警察署で行われました。

式では、宮崎支配人が小林順也署長を前に「暴力団など反社会的勢力の施設利用と利用継続を断固拒否します」と宣言。高田中弟子屈町暴力追放運動推進協議会長から、暴力団の入場を拒否するステッカーを受け取りました。ゴルフ場による暴力団排除宣言は、釧路管内初です。小林署長は「大変ありがたいこと。宣言を契機に、暴力団排除の機運を盛り上げていきたい」と話していました。

9月30日
全児童が2年がかりで集めたエコキャップ16kg
美留和小児童が社会福祉協議会に寄附



エコキャップを寄附する児童

美留和小学校(梅津和広校長)の児童が9月30日、エコキャップ(ペットボトルのふた)などを弟子屈町社会福祉協議会へ寄附しました。

児童会が中心となって2年がかりで集めてきたもの。児童会長の阿部宏紀君(5年)と藤井直太郎君(4年)が訪れ、エコキャップ16kg(6,000個)やリングプル、古切手を同協議会の山口洋司事務局長に手渡しました。エコキャップは発展途上国の子どもたちのためのワクチンになるほか、再利用もされること、リングプルは車椅子になるなどの説明を受けた子どもたちは「これからも、こうした活動を続けていきたい」と話していました。

9月29日
美留和から摩周湖まで歩いたよ
小・中学生向け体験活動「もりのパレット探検隊」



励まし合いながら登山道歩く

町内の小・中学生を対象とした、川湯エコミュージアムセンター主催の自然体験活動「もりのパレット探検隊」第2回が9月29日に行われ、小学生16人が参加しました。

「歩く旅」が年間テーマで、今回の行程は美留和駅から摩周湖第1展望台までの、林道や登山道を通る約7キロ。低・中・高学年に分かれ、地図の読み方を練習してからスタートしました。植物や昆虫を観察したり、歩くからこそ見える景色を楽しみながら、約3時間かけて全員が完歩。疲れた体をお互いに励まし合いながら、到着した摩周湖を見つめる顔は、みんな達成感にあふれていました。

好評だった2 daysエコパスポート

3カ月にわたる環境にやさしい観光交通運行が終了



JR摩周駅前を出発する摩周湖バス(上) 旅の相談に乗るボランティアガイド(下)

「2 daysエコパスポート」は、JR釧網本線の摩周川湯温泉、町内バスが2日間乗り放題で1千800円(大人)というもの。車を離れ、公共交通機関を利用した環境に優しい旅と、2日間乗り放題にすることで、滞在型の観光を提案することが目的で、購入者には、さまざまな特典も用意されました。また、通常の料金より格安でJRやバスが利用できる、町民の皆さんにも便利なパスポートを活用することで、地域公共交通の活性化を目指すという目的もあり、今年に初めてバス専用エコパスポートと町民限定エコパスポートを発売しました。

エコパスポートは、個人観光客の皆さんを中心に非常に好評で、1日22枚ペース、トータルで1千915枚ご購入いただきました。

購入された方からは「とても便利で、お得なチケットだった」などといった声が寄せられています。

弟子屈町地域公共交通活性化協議会(会長・徳永町長)が行う「弟子屈2 daysエコパスポート」事業が終了しました。

事業は、7月13日～10月6日の86日間にわたって行われました。エコパスポートは、JR釧網本線の摩周川湯温泉、町内バスが2日間乗り放題で1千800円(大人)というもの。車を離れ、公共交通機関を利用した環境に優しい旅と、2日間乗り放題にすることで、滞在型の観光を提案することが目的で、購入者には、さまざまな特典も用意されました。また、通常の料金より格安でJRやバスが利用できる、町民の皆さんにも便利なパスポートを活用することで、地域公共交通の活性化を目指すという目的もあり、今年に初めてバス専用エコパスポートと町民限定エコパスポートを発売しました。

町の話題



町の話題



弟子屈の森や木に触れて

2013弟子屈町木育週間



林業多目的研修センターに用意された木のおもちゃ(上) 木育教室で枝払いなどに挑戦する子どもたち(下)

木育は北海道生まれの取り組みとして、10月7～12日に木育週間を開催しました。

木育は北海道生まれの取り組みで、子どもたちから木を身近に使用していくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育む活動です。森林に囲まれ、森林と共生してきた本町にとっても大切な取り組みです。

7～11日の5日間は、町林業多目的センターに木のおもちゃを用意して一般開放。木製の玉が入ったプールや音の出るおもちゃ、木馬などたくさんのおもちゃに、訪れた親子連れや幼稚園児、保育園児が歓声を上げていました。

12日には、道認定木育マイスターの萩原寛暢さんを講師に小学生を対象とした木育プログラムを展開。20人が参加しました。始めに、森林組合の皆さんの仕事を見学し、実際に枝払いなどを行いました。その後、林業多目的センターに移動。仁伏の森を散策しながら小枝などを集め、集めた小枝を使っての火おこしにも挑戦。暮らした木との関わりなどを学びました。

町では、木育への取り組みの一環として、10月7～12日に木育週間を開催しました。

木育は北海道生まれの取り組みで、子どもたちから木を身近に使用していくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育む活動です。森林に囲まれ、森林と共生してきた本町にとっても大切な取り組みです。

7～11日の5日間は、町林業多目的センターに木のおもちゃを用意して一般開放。木製の玉が入ったプールや音の出るおもちゃ、木馬などたくさんのおもちゃに、訪れた親子連れや幼稚園児、保育園児が歓声を上げていました。

12日には、道認定木育マイスターの萩原寛暢さんを講師に小学生を対象とした木育プログラムを展開。20人が参加しました。始めに、森林組合の皆さんの仕事を見学し、実際に枝払いなどを行いました。その後、林業多目的センターに移動。仁伏の森を散策しながら小枝などを集め、集めた小枝を使っての火おこしにも挑戦。暮らした木との関わりなどを学びました。

10月17日
**来年は弟子屈産ワイン醸造へ
 試験栽培中の醸造用ブドウを収穫**

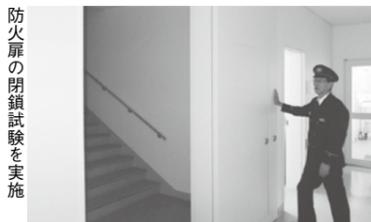


収穫されたワイン醸造用のブドウ

町では2009年から、醸造用ブドウの苗木の試験栽培を行っています。十勝ワインで有名な池田町から苗木の提供を受け、美留和の玉川大学敷地と屈斜路、町民農園で生育状況や適応性を調べながら栽培しています。

実りの時期を迎え、10月17日に収穫を行いました。概ね順調に生育し、1本当たり約2.5キロと多くの収穫ができました。来年は、弟子屈産のブドウを使ったワインの醸造を、池田町に依頼する予定です。

10月17日
**火災による事故を防ぐために
 弟子屈消防署が病院に緊急立ち入り検査**



防火扉の閉鎖試験を実施

弟子屈消防署では10月17日、摩周厚生病院に緊急立ち入り検査を実施しました。

10月11日に福岡県福岡市の整形外科病院で、死者10人、負傷者5人を出した痛ましい火災が発生したことを受け、入院床を有する同病院へ立ち入り検査を行ったものです。病院内の全ての防火扉の閉鎖試験を行ったほか、防火管理者に対して夜間の宿直警備体制などの聞き取り調査も実施。防火火災対策の強化や避難経路の再確認、整理整頓の徹底などをお願いし、いざという時のために防火対策に万全を期すよう指導しました。

10月1日
**日頃の環境保全活動を評価
 川湯小が学校版環境ISOの認定を取得**



認定証を受け取る戸田君中丞

川湯小学校(中嶋治代校長)が町学校版環境ISOの認定を受け、認定証の授与式が10月1日、同校で行われました。式では、小林教育長から児童会長の戸田大地君に認定証が手渡されました。

学校版環境ISOは、町環境基本条例に基づき町教育委員会が基準を制定し、2008年から行っています。子どもたちが自然保護や環境保全の方策を主体的に考え、環境に優しい学校づくりを実践する取り組みで、これまでに、川湯中学校と和琴・美留和・奥春別の各小学校が認定を取得。同校は、学校全体の取り組みが特に評価され、今回の認定となりました。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけつけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

10月19日
**釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイが森づくり
 そららの森で植樹祭**



手分けして丁寧に植樹

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ(桐木茂雄会長)主催の第3回そららの森植樹祭が10月19日、そららの森(旧・弟子屈飛行場跡地)で行われました。

シーニックバイウェイは、美しい景観づくりや魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりを行う団体。長く親しまれる森づくりを目指し、そららの森での植樹は2年前から行っています。今回は、弟子屈町地域公共交通活性化協議会(会長・徳永町長)のカーボンオフセットマネー(エコパスポート)の収益の一部を緑化活動に活用)による苗木と、コープさっぽろから寄贈された苗木を、約70人の参加者が植樹しました。

10月18日
**全道高等学校新聞コンクール初参加で快挙
 弟子屈高校新聞局が奨励賞**



受賞を報告する弟高新聞局の皆さん

弟子屈高校(大泉育校長)の新聞局の皆さんが、平成25年度全道高等学校新聞コンクールの写植部門で奨励賞を受賞しました。

表彰式は10月9~11日に苫小牧市で行われた第57回全道新聞研究会の席上で行われ、18日には受賞の報告で役場を訪れました。同コンクールは、北海道高等学校文化連盟の主催で毎年行われています。写植部門と手書き・ワープロ部門があり、写植部門応募12校の中から、同校が奨励賞を受賞しました。同校は、今回がコンクール初参加。今後も活躍が期待されます。

10月5日
**秋の湿地と森を歩いて堪能
 川湯エコミュージアムセンターの自然ふれあい行事**



説明を受けながら演習林を散策

川湯エコミュージアムセンター主催の自然ふれあい行事「秋の湿地・森を歩こう」が10月5日、美留和にある玉川大学演習林で、16人が参加して行われました。

釧路川源流部の湿地も含んでいる演習林は、普段は一般開放されておらず、調査研究を目的とした木道が整備されています。講師は同大学農学部技術指導員の金井秀明さん。環境による植物の違いや、種子と繁殖戦略などを分かりやすく解説し、熱心に内容を書き留めたり、質問する方もいました。参加者の皆さんは、実際に変化する状況を見ながら説明に耳を傾けることで、より一層理解を深めていました。

10月4日
**農業の大切さを知ってほしい
 JA青年部が弟子屈小で食育授業**



地産野菜がメインでポテトチップス作り

JA摩周湖青年部(山内功丞部長)の皆さんが10月4日、弟子屈小学校(阿部典子校長)の5年生を対象に、食育授業を行いました。

本町の基幹産業である農業について理解を深めてほしいと、毎年開催しています。酪農家の一泊や乳牛についてスライドを使って説明したほか、弟子屈で生産されている農作物について、実物を見せながら説明を行いました。その後、調理室に移動し、弟子屈産の3種類のジャガイモを使ってポテトチップス作りに挑戦。児童は出来立てをおいしそうにほおぼっていました。

10月24日
**ふるさとの素晴らしさを再発見
 秋の名木ツアー**



モミシを見上げる参加者の皆さん

2006年に町が指定した名木を巡るツアーが10月24日に開催されました。春に続いて、今年度2回目のツアーです。

根釧西部森林管理署との共催で、釧路市からの参加者も含め27人が参加しました。紅葉を中心に8カ所を回り、名木の選考委員長を務めた須田文男さんから、樹齢などの説明を受けながら見学。好天にも恵まれ、名木を見た参加者からは感嘆の声も聞かれました。また、普段はなかなか行くことのできないキンムトも訪れました。

10月20日
**地域の連携と共助を重ねて
 高台自治会が創立50周年**



節目を祝って記念撮影

高台自治会(勝呂清会長)が創立50周年を迎え、記念式典・祝賀会(同実行委員会主催)が10月20日、社会

老人福祉センターで行われました。式典・祝賀会には、自治会員や来賓の方など約90人が出席し、節目を祝いました。式典では、これまでに自治会の役員を歴任し、地域に貢献してきた12人に感謝状が贈られたほか、弟子屈警察署生活安全課の横内亮太警部補による講演会も行われました。勝呂会長は「これからも地域の絆を結んでいきたい」と、気持ちを新たにしていました。

10月8~10日
**修学旅行で酪農体験
 横浜市立南高校が本町で民泊**



搾乳を手伝う高校生

横浜市立南高校の生徒24人が10月8~10日、修学旅行で町内を訪れ、2泊3日で12戸の酪農家宅でファームステイを行いました。

都会の子どもたちに酪農への理解を深めてもらおうと、釧路地区農協組合長会と釧路地区酪農対策協議会が事務局となり、中山間事業の取り組みとして毎年、修学旅行の受け入れを行っています。生徒たちは、朝晩の搾乳や子牛へミルクを与える作業などを手伝いながら、酪農家の皆さんと寝食を共にし、交流を深めました。

10月6日
**4カ月間のお稽古の成果を披露
 摩周子どもおこと教室の発表会**



お稽古の成果を披露する子どもたち

摩周子どもおこと教室の発表会・閉講式が10月6日、町公民館で行われました。

教室は町青少年健全育成事業の一環で、町教育委員会と生田流琴友会(辻谷武喜代表)の共催で6月に開講。小学校1~5年生10人が10月まで、箏(そう)のお稽古に励んできました。発表会では、これまで練習してきた「チューリップ」「ソーラン節」「さくらさくら」などを披露。集まった保護者などから大きな拍手が送られました。